自彊前進

題字　西村直子

NO. １０　令和４年５月１９日（木）
新潟大学附属新潟中学校　学校だより
文責　教頭

※　自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
（校歌３番の文言から）

飛翔祭 Second Half：すなやま完歩大会の取組

今年度、体育的な行事である「ときわ体育祭」と「すなやま完歩大会」を一続きの行事とし、「飛翔祭」と名付け、スローガンを「First Impact～きょうどう・全力・創造」と設定しました。先週のときわ体育祭では、自連合の仲間、他連合の敵（なかま）と共通の目標に向けて、全力で取り組みました。その成果を引き継ぎ、創造的な活動が今週行われました。

すなやま完歩大会は、昭和 52 年（1977 年）に始まりました。当時は「木曽路の旅」とペアで計画し、３年間で 100 キロを歩くことを目指した行事だったようです。50 周年記念誌「創造の半世紀」では、すなやま完歩大会を次のように紹介しています。

> 在学３年間で 100ｋｍ以上の完歩を目標として始まったすなやま完歩大会。苦しい道程の中にも、やり遂げた満足感や仲間との触れあい、そして、大自然との交わりなどが感じられる行事である。

第３回からは、健脚コースとして、間瀬から学校の３５キロを、標準コースとして、角田から学校の３０キロを設定しました。平成１８年度には、これに挑戦コースとして、間瀬→みなとタワー→学校のフルマラソンコースが加えられました。その後、地球温暖化の現象からか、海岸の砂浜部分が少なくなり、歩道を歩かざるを得なくなってしまった場所が増えてきたり、コロナ禍により、運営の仕方も工夫が迫られたりしてきました。

そんな中、完歩実行委員が中心となり、新たなコースを設定してくれました。青山、小針、五十嵐浜まで行き、折り返し、その後新潟島を一周する素敵なコースで、海岸や川岸を歩き、自然を満喫できるコースになっています。実行委員は実際に歩き、コースを下見したようです。教員は教員で下見をしますが、実行委員も下見をするというのには、本当に驚かされました。この行事にかける生徒の強い思いを感じました。

附属中学校では行事当日を「本番」とは言いません。それに向けた「日常」にこそたくさんの「本番」が設定されています。しかしながら、「ときわ体育祭」「演劇発表会」「音楽のつどい」と比べ、「すなやま完歩大会」だけが、「『当日』＝『本番』」というイメージを払しょくできませんでした。今回、飛翔祭実行委員の創造的な取組として、体づくり講座が実施されたり、ときわ体育祭の他連合かつ他学年同士で縦割りチームを組み、球技大会が行われたりします。「当日」に向け、共通の目標を目指して励まし合える関係づくりに努めましょう。大いに「きょうどう」し、全力で当日の完歩を乗り越えられるよう応援しています。